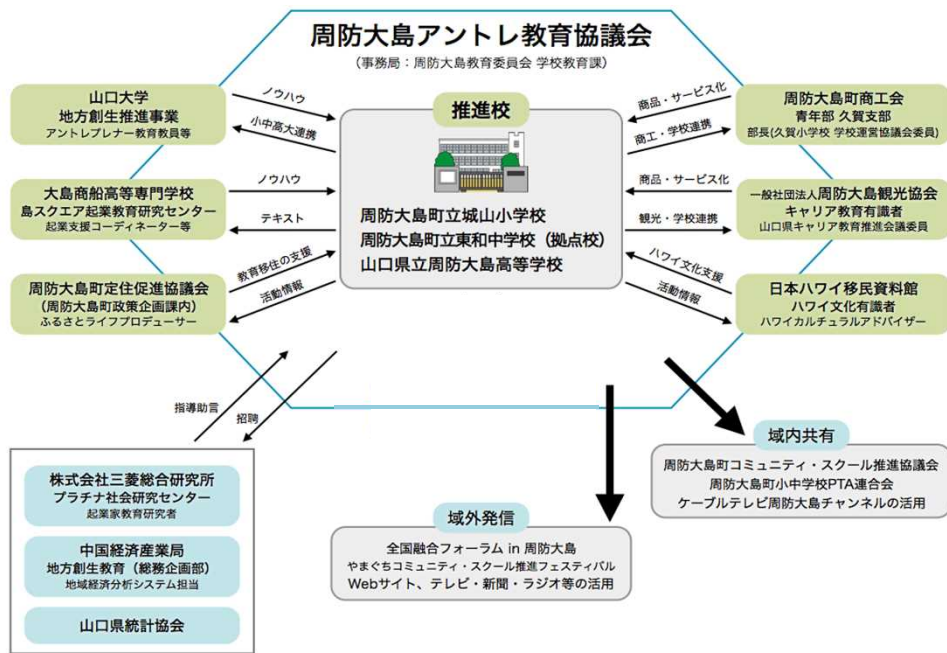


「小・中学校等における起業体験推進事業」実施計画書

1. 実施主体	
本事業を受託する教育委員会	山口県教育委員会
2. 現状及び課題	
学校及び地域におけるキャリア教育の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の必要性に対する理解が、家庭・地域・産業界等で進んできた。 ・職場見学や職場体験をすべての小・中学校で実施している。 ・「志」を抱かせる教育の充実に向けた「1/2成人式」(小)「立志式」(中)を9割以上の学校で実施している。 ・全体計画はすべての小中学校で作成されている。年間指導計画は作成している学校が増えてきている。
学校及び地域におけるキャリア教育に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさを伸ばし将来を切り開いていこうとする意欲や能力の更なる育成が必要 ・コミュニケーション能力を含めた人間関係を築く力の育成が必要 ・職場見学・職場体験が形骸化している取組が散見され、工夫改善が必要 ・一人ひとりの成長を促すため、小学校段階からの系統的な取組が必要 ・学校と家庭・地域・産業界等との一層の連携協力が必要
3. 委託内容に対する取組	
実施する学校	周防大島町立城山小学校 周防大島町立東和中学校 山口県立周防大島高等学校
目標	将来、地域を支える人材となるために、周防大島の自然や人材を活用し、 ・社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる知識・能力・態度を育成 ・社会の一員としての自覚を深め、自分の役割を果たそうとする意欲や能力を育成 ・「基礎的・汎用的能力」の一つであるプレゼンテーション能力を育成
取組計画	<p>【周防大島町の状況】</p> <p>全国に先んじて少子高齢化が進む周防大島において、人口流出を阻止するとともにUターン希望者が地元に戻って生活することができるようにするためには、児童生徒が自ら周防大島のよさを知り、地域と連携した起業体験等を通して、ふるさと周防大島を愛する心を育成する必要がある。</p> <p>【実施校の児童生徒の状況】</p> <p>素朴で素直な児童生徒が多いが、成功することよりも失敗しない(チャレンジしない)ことを選ぶ傾向が見られる。このことから、小中高連携を進め、ものごと主体的に取り組む姿勢を育成する必要がある。</p> <p>【取組の実際】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの仕組みを基盤とした起業体験に関する体験型・課題解決型の学習を通して、ワクワクするようなチャレンジの場を設定し、失敗から学ぶことの大切さを実感させるとともに、自分の良さや可能性を伸ばそうとする意欲や主体性を養う。 ・郷土の民族学者宮本常一の手法「歩く、見る、聞く」をフィールドワークのキーワードとして取り組み、周防大島の素晴らしさを直接体験するとともに、起業に必要なデータを収集し、その活用方法及び統計リテラシーについて学ぶ。

(1) 学校において起業体験活動を実施するためのモデルの構築

① 実施体制 (図で示すなどわかりやすく記載すること)



② 授業をサポートする団体(予定含)

- (1) 山口大学 → ノウハウの提供
- (2) 大島商船高等専門学校 → ノウハウの提供
- (3) 周防大島町定住促進協議会 → 教育移住の支援
- (4) 周防大島町商工会青年部(久賀支部) → 商品・サービス化の支援
- (5) 一般社団法人周防大島観光協会 → 商品・サービス化の支援
- (6) 日本ハワイ移民資料館 → ハワイ文化支援
- (7) 山口県統計協会 → 統計教育の支援

③ 取組内容

活動の視点

本事業で育みたい3つの力	① 自ら生きる力	② とともに生きる力	③ よりよく生きる力
小学校	楽しくチャレンジする	地域で体験する	収集した情報を活用する
中学校	見通しをもってチャレンジする	地域に貢献する	目的をもって情報を収集し活用する
高等学校	リスクも考えてチャレンジする	地域を発展させる	有益な情報を収集し的確に活用する

【城山小学校】

第1・2学年「栽培・販売体験」・生活科・算数 等

- ・地元指導者の協力を得て行う野菜の栽培
- ・販売実施について地域への広報
- ・地域参観日等での学校での販売

第3・4学年「生産・販売体験」・総合的な学習の時間・音楽・算数・家庭科 等

- ・地域素材を用いた商品開発(担任から商品例を紹介)
- ・地元指導者等の協力を得て行う商品作成(身近な素材を用いた楽器づくりの指導)
- ・道の駅ルーラルフェスタでの販売及び演奏発表

第5・6学年「生産・販売体験」・総合的な学習の時間・算数・家庭科 等

- ・地域素材を用いた商品開発・販売計画の立案
- ・地元指導者等の協力を得て行う商品作成(身近な素材を用いた小物づくり、ジャムづくりの指導)
- ・道の駅ルーラルフェスタ、海の市

【東和中学校】

第1学年 「郷土おおしま」総合的な学習の時間・社会科

- ・周防大島町内の事象で興味のある事象を調査する課題を設定(過去の調査の紹介)
- ・課題に対するフィールドワーク手法を用いた調査研究 ・研修成果の発表(本調査を経験した先輩の助言)

第2学年 「アントレ」総合的な学習の時間、国語科、社会科、数学科、美術科、技術科

- ・起業について講話 ・市場調査・出店計画(道の駅)の実施(サポート団体による指導助言)
- ・株主募集、出店説明会(株式の仕組みの理解や効果的な説明の指導)
- ・株主からの指導助言を生かした出店方法や商品の改善
- ・道の駅ルーラルフェスタでの出店
- ・株主総会開催

第3学年 「夢のかけ橋」総合的な学習の時間・社会科、数学科、美術科、技術科

- ・未来の仕事について考える(職業調べ)
- ・自分の夢の実現に向けた今後の自分の生活について考える(大学生との懇談)
- ・自分の夢の仕事と実現に向けた道筋についてプレゼンテーション

【周防大島高等学校】

- ・模擬会社設立、商品開発
- ・道の駅ルーラルフェスタ、海の市への出店、イベントプロデュース(フラダンス発表、イメージマスコット作成)
- ・絵はがき作成、販売(風景写真)、アロハシャツ
- ・周防大島に伝わるわらべ歌CDの試作

【交流】

- ・出店の場所を隣接させることにより、児童生徒がアドバイスをもらったり、上級生に対して憧れの気持ちをもてるようにする。
- ・「周防大島で新しいビジネスを創造」「起業家精神に満ちた人材の育成」を目指した周防大島高校地域創生科(ビジネスコース)の生徒が、起業体験活動のアドバイザーとしての参加、商品開発や出店の協力する。
- ・各学校で開催する講演会等の研修会に教員が相互に参加し、起業体験に関する研修を深める。

【アントレ教育協議会】

- ・起業体験で育成したい力「自ら生きる力・ともに生きる力・よりよく生きる力」を踏まえ、教育委員会や学校の取組の改善に向けた提言を行い、キャリア教育の一層の充実を図る。
- ・小・中・高、発達の段階に応じた起業体験活動のモデルを作成する。

①域内の学校への普及方法について

- ・キャリア教育実践セミナー：【H28】計画及びセミナー開催時点での取組発表、【H29】実践発表
- ・キャリア教育実践事例集(web掲載)：実践資料掲載
- ・県市町キャリア教育連携・推進会議：実践紹介と復伝依頼
- ・県内全小・中・高等学校及び域内市町教委への小・中・高それぞれの段階での起業体験活動の実際を記したリーフレットの配布
- ・県内各種キャリア教育研修会で、リーフレットを活用した研修の実施。

②地域・保護者等への周知方法について

- ・県教委広報誌「News Letter」：実践資料掲載
- ・キャリア教育実践セミナー：【H28】計画及びセミナー開催時点での取組発表、【H29】実践発表
- ・キャリア教育実践事例集(web掲載)：実践資料掲載

(3)その他の取組

城山小学校→東和中学校→周防大島高校と進学する子どもたちは比較的多いため、この連携を通して、小中高で一貫性のあるキャリア教育の推進を図り、12年間での学びと成長を創出することが期待できる。

4. スケジュール

実施時期	実施内容		
	小学校	中学校	高等学校
5月	オリエンテーション	オリエンテーション	オリエンテーション
6月	起業について学ぶ(授業・講話)	起業について学ぶ(授業・講話)	・写真のとり方の講話 ・フォトコンテストの実施
	ふるさと素材を用いた商品開発 ・みかんの木を使った楽器の紹介、製作 ・ジャムづくりの試作	市場調査(社会科、数学科)	新商品アイデア作成
		道の駅での出店プランニング	新商品アイデアコンテスト
7月		説明会用プレゼン資料の作成(国語科、美術科、技術科)	我が町の地域活性化計画作成 地域活性化の講演
8月			キャリア教育実践セミナーでの計画発表及び経過報告
9月	商品製作・出店準備 演奏練習	株主募集・出店説明会の開催(プレゼン)	フラダンスの練習、受指導
10月		株主からの提案を生かした出店方法、商品の改善	島高マスコットデザイン作成 島高アロハデザイン作成 わらべ唄CD試作、受指導
11月	道の駅のルーラルフェスタに出店	道の駅のルーラルフェスタに出店	島高アロハ作成 道の駅のルーラルフェスタに出店 わらべ唄CD試作
12月		株主総会資料の作成、株主総会(決算報告等)	
	起業体験活動の発表会		

※城山小学校、東和中学校、周防大島高等学校で共有・連携し、12年間での学びと成長を視覚化する。周防大島アントレ教育協議会は年間3回程度を実施予定し、それぞれの発達の段階に応じた起業体験活動のモデルをリーフレットにまとめる。

5. 取組により見込まれる成果とその検証方法

<見込まれる成果>

児童生徒:「起業家精神」や「起業家資質・能力」を有する人材育成ができる。

学 校:協議会での組織間連携により長期視点と多様な支援により、効果的な起業体験を実施できる。

団体・企業:地域貢献のみならず、島の未来への投資になる。協働開発した商品等を常設販売する事も可能。

保 護 者:小中高での協働実施により、周防大島高等学校への関心を向上させ、地域の子どもを地域で育てることができる。

<検証方法>

アンケート:児童生徒、教職員、保護者、団体・企業(企業家精神や企業家的資質・能力等の視点で行う。)

団体・企業:実施翌年度に常設販売等を目指す商品の数等。